

学童保育は「生活と遊びの場」－私たちは何度この言葉をくりかえし確認してきたでしょう。この分科会では子どもたちの“遊び”世界が直面する状況に目を向けながら、子どもたちの自発的、主体的な活動である“遊び”をどのように理解し、どのように関わっていくべきなのかを次のようなキーワードで考えていきたいと思ひます。

<キーワードその1>子どもにとって“遊び”とは何なのだろうか

子どもの“遊び”は「自発的、主体的な活動」であるといわれています。「やりたい時に、やりたいことを、やりたい人とやる（あるいはやらない）自由な活動」である“遊び”が子どもの育ち（成長・発達）に与える影響の大きさを考えながら、子どもにとっての“遊び”の意味やその“遊び世界”を豊かにするための指導員の関わりについて考えたいと思ひます。

<キーワードその2>“遊び”を通して子どもに育まれるものは何なのだろうか

“遊び”によって育まれるものは「○○ができるようになった」という目に見えやすいものだけではなく、“セルフコントロール”や“自己肯定感”などに代表される心の育ちや、社会性の土台となると言われている「人と関わることへの意欲」など目には見えにくいものもあるようです。またストレスの中で“折れ”たり“キレ”たりした心と人間関係を再び回復させようとする力にも着目しながら子どもの“遊び”について考えてみたいと思ひます。

<キーワードその3>子どもの“遊び”への指導員の関わりについて考える

学童保育における“遊び”を「発生」「組織」「活動」「終結」という4つの局面に便宜上区分した上で、それぞれの局面で大切にしたいことや留意点について考えます。また、「子どもに“遊び”を伝承していくこと」や「子どもと共に“遊び”をつくっていくこと」についても考えてみたいと思ひます。